

The logo for QUICKIE, featuring a stylized white swoosh above the word "QUICKIE" in white capital letters.The logo for zippie, featuring a stylized white swoosh above the word "zippie" in white lowercase letters.The logo for IRIS, featuring the word "IRIS" in white capital letters.

クイッキーアイリス/ジッピーアイリス取扱説明書

販売店の方へ：

この取扱説明書、保証書を購入された方に渡してください。

車いす使用者の方へ：

車いすを使用する前に、この取扱説明書をすべて読んでください。また、常に安全に車いすを使用するため、必要な時に読み返してください。

I. はじめに

サンライズメディカル社は、お客様の声を大切にしております。この度は、クイッキーアイリス／ジッピーアイリス車いすをお買い上げいただきありがとうございます。この取扱説明書に関することや、販売店の対応やお客様のご質問、ご意見などをお聞かせください。

サンライズ メディカル ジャパン 株式会社

〒349-1145 埼玉県加須市間口456番地1

Tel: 0480-31-6480

ご質問は：

車いすについてのご質問は、お客様が購入した販売店へお問い合わせください。下記に販売店と製品の情報を記入してください

販 売 担 当：

販 売 店：

住 所：

電 話 番 号：

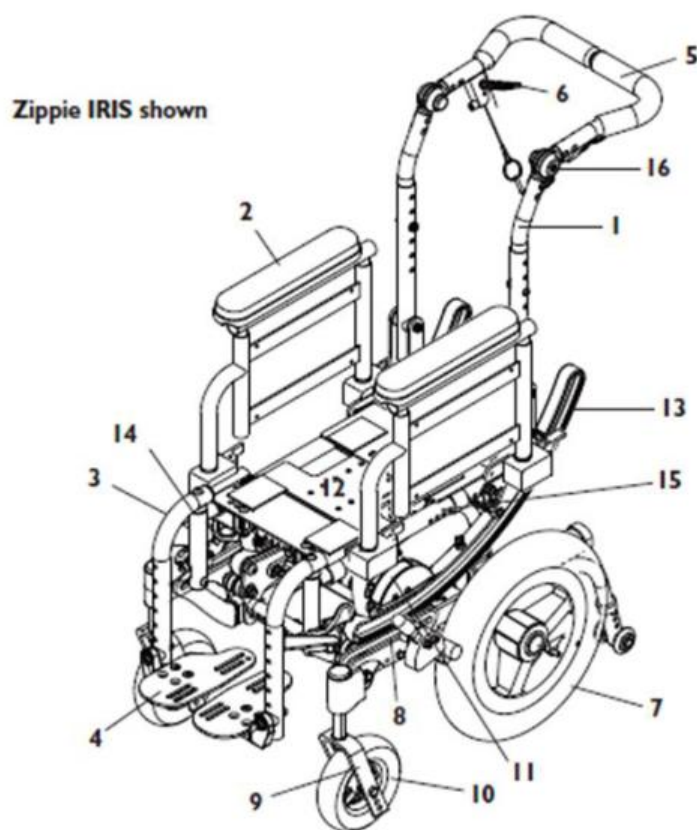
シリアル番号：

お買い上げ日：

II. 目次

I.	はじめに
II.	目次
III.	各部の名称
IV.	使用する前にお読みください
V.	一般的な使用に関する注意事項
VI.	車いすからの転落、転倒に関する注意事項
VII.	安全な使用方法について(介助者の方へ)
VIII.	部品、オプションについて
IX.	車いすの設定と調整
X.	トラブルシューティング
XI.	メンテナンス
XII.	保証

Ⅲ. 各部の名称



1. バックポスト
2. デュアルポスト高さ調整機能付きアームレスト
3. スイング・イン/アウト式フットレスト
4. アルミニウムフットプレート
5. ストロラー・ハンドル
6. ティルト用リリースレバー
7. 12"後輪
8. ティルト角度設定金具
9. キャスターフォーク
10. キャスター
11. ティルト角度計
12. 調整式シートパン
13. ティルトロッカー
14. ハンガーレシーバー
15. シートフレーム
16. 調整式ストロラー・ハンドル

注意:

この説明書に記載されている各オプション中にはクイッキーアイリスとジッピーアイリスの各モデルに共通で使用できないものも含まれています。それぞれのモデルに取り付け可能なオプションの詳細については、お買い上げの販売店にお問い合わせください。

IV. 使用する前にお読みください

A. 使用者に適切なクイッキー車いすを選び、安全性を向上するオプションを選んでください。

サンライズメディカル社は、使用者に最適なクイッキー車いすを提供するため、様々な車いすの種類やサイズ、また、調整可能な製品を取り揃えています。担当の医師やセラピストに相談し、使用者に最適な車いすをお選びください。車いす選びのポイントは次の通りです。

1. 使用者の障害、身長や体重、体力、バランス感覚などを考慮する。
2. 日々の使用環境を考慮する。(使用する場所、障害になるものやその場所など)
3. 安全性や快適性を得るためのオプションの必要性を考慮する。

B. 定期的にこの取扱説明書を参照してください

この車いすを使用する前に、使用者と介助者は、必ずこの取扱説明書をお読みください。より安全で快適な操作ができるように取扱説明書の注意事項、警告を注意しながら読んでください。

C. 警告

車いすの操作を誤ると、とても危険です。【警告】には、車いす使用者や周囲の方に深刻な事故、怪我、または生命に関わる危険性が示されています。

警告は、下記の4つの項からなります。

1. V - 警告：
この項では、車いすご使用前の安全確認や、注意事項、警告が記載されています。
2. VI - 警告：転落や転倒について
この項では、車いすからの転落や転倒を防止する方法が記載されています。
3. VII - 警告：安全な使用方法について
この項では、車いすの安全な使用方法が記載されています。
4. VIII - 警告：部品、オプションについて
この項では、車いすやパーツ、オプションについて記載されています。車いすを安全にご使用いただくために、使用者に

最も適した車いすの調整や、部品を選択してください。

注意:

上記以外の項目においても、警告が記載されています。記載されている警告に留意してください。警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります。使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

V. 一般的な使用に関する注意事項

A. 重量制限

【警告】

車いすの重量制限は、以下のようになります。

- クイッキーアイリス 114kg
※ヘビーデューティー仕様の場合は 159 kg
- ジッピーアイリス 75Kg

決して、重量制限を超えて使用しないでください。重量制限を超えて車いすを使用した場合、車いすの損傷、車いすからの転落、転倒、制御不能、車いす使用者や周囲の方々に深刻な怪我を負わせる可能性があります。

B. ウェイトトレーニング

【警告】

ウェイトトレーニングを行う際も、車いす、使用者、ウェイト(重り)の合計重量が車いすの重量制限を超えないようにしてください。重量制限を超えて車いすを使用した場合、車いすの損傷、転落、転倒、車いすの制御不能、車いす使用者や周囲の方々に深刻な怪我を負わせる可能性があります危険です。

C. 車いすをお使いになる前に

【警告】

当社の車いすは、使用者一人一人に合わせてつくられています。車いすを乗り始める前に、車いすによく慣れてください。いままで使用していた車いすと同じ要領で、車いすを操作すると車いすから転落、転倒する危険性があります。過剰な力での操作は、車いすの損傷、車いすからの転倒や転落、車いすの制御不能、使用者や周囲の方々に重傷を負わせる可能性があります危険です。

D. 事故の危険性を減らすために

【警告】

1. この車いすを使用する前に、安全な使い方を医師、セラピストなどから指導を受けてください。
2. 体を屈めたり、手を伸ばしたり、移乗などの練習を行い、使用者の能力の限界を把握してください。
3. 使用者の能力や、機能に適している安全な車いすの使用方法

を見つけてください。

4. 安全に車いすを操作できるようになるまで、自力での走行は避けてください。
5. 車いすを使用する場所で、必ず、どのような障害物、危険物があるか確認し、これらの物を避ける方法を見つけてください。
6. この車いすには、転倒防止ホイールの使用を推奨します。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

E. 安全チェックリスト

毎回、車いすを使用する前に、必ず以下についてご確認ください。

1. 車いすが円滑に作動することをご確認ください。使用時のノイズ、振動、使い心地などに変化があるかどうかチェックしてください（変化があれば、タイヤの空気圧の低下、ネジ類の緩み、車いすが破損しているの可能性があります。）
何か異常が認められた場合には、修理や調整についてお買い上げの販売店にご連絡ください。販売店は問題の原因を見つけることから、調整、修理まで、対応することができます。
2. 車いすに問題が発生した場合、販売店と相談しすぐに修理を行ってください。
3. 両側のクイックリリース・アクスル(車軸)が確実に取り付けられているか確認してください。アクスルが固定されていないと、車輪がはずれる可能性があり、車いすから転落する恐れがあるので大変危険です。
4. 転倒防止ホイールがついている場合は、転倒防止ホイールを固定してください。

注意:

転倒防止ホイールについては VIII 章に記載されている注意事項も合わせて読んでください。転倒防止ホイールを使用してはならない時についての説明があります。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

F. 車いすの変更や調整について

【警告】

1. 車いすの改造は、車いすの転倒や使用者の転落などの危険性が高まります。
2. 車いす設定の変更、または、車いすの調整を行う前に、必ず販売店に相談してください。
3. 車いす操作を安全に操作できるようになるまでは、転倒防止ホイールの使用を推奨します。
4. サンライズメディカル社の承認を得ていない車いすの改造は、車いすの安全性が損なわれるだけでなく車いすを作り直したことと見なされますので、保証が無効になり、その後に生じた損害については一切責任を負いません。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

G. 環境条件

【警告】

1. 路面が濡れている場合や滑りやすい場合、充分に注意して走行してください。少しでも不安があれば、周囲の人に介助を依頼してください。
2. 湿気は車いす部品を錆びさせたり、腐食させたりする可能性があります。車いすは防水ではありません。車いすは水に濡れると、内部から腐食する可能性があります。
 - a 車いすは、シャワーやプールなど水に濡れるところで使用しないでください。水に濡れると、内部からの錆びや腐食の原因になります。
 - b 湿気があるところに車いすを置かないでください。
 - c 車いすが濡れた場合すぐに水気を拭き取ってください。また、車いすを水拭きしたあと、乾拭きも行ってください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

H. 走行環境

1. この車いすは、堅く平らな路面（室内、アスファルト、コンクリートなど）の上を走るように設計されています。
2. 浜辺や砂利、ぬかるんでいるところ、険しい道などでの走行を避けてください。これらの場所で走行すると様々な故障の原因になります。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

I. 路上での注意

【警告】

車いすで車道を走るとは危険です。条例で禁じられている地域もあります。常に歩道を走行し、やむを得ず車道を走行する場合や駐車場では、充分に自動車に気をつけて操作してください。

1. 夜間、または、暗い場所では、車いすや洋服に蛍光テープ等を張り、目立つようにしてください。
2. 自動車の運転手から車いすが見えにくい場合があります。自動車の前を横切の際は、運転手に合図をして安全確認をしてください。少しでも不安のある時は、自動車を優先して通行してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

J. 一般の交通機関や乗り物内での安全について

【警告】

ご使用の車いすを他の交通機関やその他の乗り物に乗せる前に必ずトランジットオプション（車載用固定金具）が装着されているかどうかご確認ください。車いすにトランジットオプションがついていない場合は、以下の指示に従ってください。

【警告】

トランジットオプション（載用固定金具）が搭載されていない車いすは、乗り物内での使用に適していません。

1. 移動中は、車いすに乗らないでください。使用者は必ず既存

のシートに座ってください。

- 必ず、シートベルトを固定してください。交通事故の時や急停車をしたときなど、座っている場所から投げ出される可能性があります。車いすについているシートベルトは、緊急時用ではありません。車いすのシートベルトなどは、交通事故の時や自動車が急停止したときなどに、使用者に怪我をさせる危険性があります。
- 使用者の車いすを自動車前方の助手席に積み込まないでください。走行中に車いすが動いて運転の妨げになる場合があります。
- 自動車で移動の際は、車いすのブレーキをかけ、車いすが走行中に動かないように確実に自動車へ固定してください。
- 交通事故に遭遇したことのある車いすは使用しないでください。

車いすにトランジットオプションがついている場合には、VIII章「M.トランジットオプション（車載用固定金具）について」およびVII章の「G.トランジットオプション（車載用固定金具）の位置」を参照してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

K. 介助を必要とする時のために

【警告】

車いす使用者の方へ：

介助者に取扱説明書に記載されているすべての警告と車いす使用方法を確認してもらい、理解してもらってください。

介助者の方へ：

- 車いす使用者の担当医師、看護師、セラピストと相談し、車いす使用者と介助者の機能や能力を考えて、車いすの安全な使用方法を考えてください。
- 車いす使用者へ自分が何をするか、使用者に何をしてほしいかを説明してください。双方が理解することで車いす使用者の不安を取り除き、事故が起きる危険性を減らすことができます。
- 車いすにはプッシュ・ハンドルやストローラー・ハンドルが

付いていることを確認してください。使用者の車いすからの転落や転倒などを減らすことができます。プッシュ・ハンドルを使用する際はグリップがきちんと固定されていることを確認してください。

- 介助時に腰を痛めないように、正しい姿勢と体のバランスを使って車いすを扱ってください。車いすを持ち上げるときや、車いす使用者を支える時、ティルトする時など、必ず膝を曲げて背中をできるかぎりまっすぐにした状態にしてください。
- 車いすをティルトする際には、後ろへもたれるように使用者へ指示してください。
- 段差があるところでは、車いすをゆっくりと完全に降ろしてください。残りわずかなところで車いすを落とさないよう気をつけてください。車いす使用者の怪我や、車いすの故障につながります。
- 介助を行う際は、転倒防止ホイールを操作して機能しない状態にして、介助の妨げにならないようにしてください。車いす使用者から離れる時は、必ず転倒防止ホイールを機能する状態にし、車いすのブレーキ（ホイール・ロック）をかけてください。車いすの転倒と使用者が転落する危険性が減少します。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

VI. 車いすからの転落、転倒に関する注意

事項

A. 車いすの重心

【警告】

車いすの設定、オプションの取り付け、変更などにより重心位置が変化し、転倒や転落の危険性が高まる場合があります。

1. 一番重要な設定
 - a 後輪の設定位置。後輪を前方より設定すれば、前方キャストが浮き上がり、後方へ倒れる危険性があります。
 - b ティルト角度設定金具の設定位置
2. 重心は下記のことで影響を受けます。
 - a 車いすの設定：
 - 後輪の位置
 - バックレスト角度
 - b 乗り方や姿勢、体重のかかり方
 - c 坂や段差を進む時。
 - d 車いすへの追加重量（リュックサック等の積載物）
3. 事故の危険性を軽減するために
 - a アクスル位置や、キャスト位置の適切な設定は、医師やセラピストまたは、販売店より指導を受けてください。
 - b 変更や設定調整を行う前に、販売店に相談してください。
 - c 車いす上でバランスを保つこと、車いすで転倒しないコツをつかむまで、介助者と一緒に練習を行ってください。
 - d 転倒防止ホイールを使用してください。
 - e 使用者以外の方が、車いすの上に乗ったり、立ったりしないでください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

B. 洋服を着替える時

【警告】

車いすに座った状態で洋服を着替えると、重心位置が変化し不安定になります。転倒や転落、車いすへの損傷を防止するために次のことに注意してください。

1. 車いすの安定性を増すために、キャストが最も前に出るよう前輪の向きを設定してください。この向きは車いすで後方に進む時のキャスト位置です。
2. 転倒防止ホイールを固定し使用できる状態にしてください。（もし、車いすに転倒防止ホイールがついていない場合、車いす後方に壁がある状態にし、後輪にブレーキ(ホイール・ロック)をかけてください。)

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

C. キャスター上げ（ウィリー：前輪を浮かせて後輪だけで走行すること）について

【警告】

クイッキーアイリス/ジッピーアイリスは、ティルト機能を操作することで、重心が変化するため、転倒を招く恐れがありますので絶対にキャスト上げは行わないでください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

D. 障害物について

【警告】

障害物や、移動中危険性のあるもの(路面のくぼみ、舗装中の道路)は、車いすに損傷を与えるだけでなく、使用者の車いすからの転落、転倒、怪我の原因になりますので十分に注意してください。

危険を回避するために以下に気をつけてください：

1. 移動先を見ながら車いすの操作を行い、できるだけ早く障害物を見つけ、安全な道を確保してください。
2. 使用者の住居や、仕事場の通路から、障害物を取り除いてください。

3. 安全のため、敷居を取り除いたり、敷居を覆ったりしてください。
4. 段差のある出入口にはスロープを取り付けてください。スロープの終わりに段差がないようにしてください。
5. 身体の重心移動：
 - a 障害物を越える時、身体を少し前に屈めてください。
 - b 高い位置から、低い位置に移動する際は、背中をバックレストに付けてください。
6. 転倒防止ホイールが装着されている場合は、障害を越えるまえに、転倒防止ホイールを上げて(解除して)ください。
7. 障害物を越える際、可能な場合はアームレスト等に掴まってください。
8. ドアのハンドルなどや、またはその他の物を押ししたり、掴んで引っ張ったりすることで車いすを操作しないでください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

E. 手や身体を伸ばす時

手や身体を伸ばしたり、後ろへよりかかったりすると重心位置が変更し、転倒や転落につながります。少しでも不安があれば、道具を使用したり、近くにいる方に手伝ってもらったりしてください。転倒や転落、車いす損傷を防止するために次のことに注意してください。

1. 体重を車いすのどちらか一方にかけなければいけない時、またはシートから立ち上がる時、絶対に手やのばしたり体を傾けたりしないでください。
2. 車いすのシート上で腰を前にずらして、手をのばしたり体を前方に傾けたりすることは絶対にしないでください。車いすに座っている時は、腰がバックレストから離れないように深く座ってください。
3. 両方の手を同時に伸ばさないでください。バランスを失う危険性があります。
4. 転倒防止ホイールを使用していない方は、後方に体や手を伸ばさないでください。
5. 絶対に、背もたれの上から、後方に手を伸ばしたり、寄りかかったりしないでください。背もたれや、バックポストの破

損につながるとだけでなく、後ろに転倒する危険性があります。

6. どうしても手や体を伸ばす必要があるとき
 - a 後輪を固定しないでください。後輪を固定すると、手や体を伸ばした時に、後輪が動かないため、転倒、または、転落する恐れがあります。後輪が自由に動くと、重心の調整が可能になり、転倒や転落の危険性が減少します。
 - b フットレストへ体重をかけないでください。

注意:

フットレストへ足を乗せた状態で前にかがむとフットレストに体重がかかり、車いすが前方に転倒する恐れがあります。

- c 手を伸ばす対象物に、できるだけ車いすを近づけてください。
- d 両膝の間から、下にあるものを拾わないでください。横から拾うほうが安全です。
- e 前輪キャスターを回転させ、キャスターを後進時の位置にしてください。車いすがより安定します。

注意:

前輪キャスターを後進時の位置にするには：

- 対象物に対して少し通り越した位置に車いすを移動します。
- 続いて、対象物方向に後進します。車いすを後進させることで、前輪キャスターが後進時の位置になります。
- f 片手でアームレストまたはハンドリムをしっかりと握って、車いすの転倒や車いすからの転落を防いでください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我を危険性があります。

F. 後進する場合

【警告】

車いすをバックさせる際は特に注意して操作してください。障害物にぶつかると、車いすの操作ができなくなったり、車いすから

使用者が転落したりする危険性があります。

【警告】

1. 車いすをゆっくり、安全に動かしてください。
2. 転倒防止ホイールが装備されている場合は、必ず使用してください。
3. 車いすを時々、停止させながら確認を行い、操作を行ってください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる事があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

G. 坂・スロープ・傾斜した場所での走行

車いすは、傾斜では、重心位置が変わり、平らな場所より不安定な状態になります。このような場所では、転倒防止ホイールでも、転倒や車いすからの転落を完全に防ぐことができませんので、注意してください。

1. 急角度の斜面：傾斜の角度が 10%以上ある場合は、走行しないでください。(傾斜度 10%は 3 m 進むにつれ約 30cm 高さが上がることを意味しています。)
2. 坂道はまっすぐ上がり、まっすぐ下がってください。(坂で走行の際は、斜めからの角度で上がったり、下がったりしないでください。)
3. 坂の途中で進行方向を変えたり、車いすの向きを変えたりしないでください。
4. 常に、坂の中央を走行してください。必ず、坂や傾斜路の幅が車いすより充分広く、車いすの車輪が落ちない幅があることを確認してください。
5. 坂の途中で止まらないでください。車いすを止めると、操作が行えなくなる可能性があります。
6. ブレーキ（ホイール・ロック）を利用して、速度を落としたり車いすを停止させたりしないでください。車いすを正確に操作できません。
7. 次のことに注意してください。
 - a 滑りやすい場所（氷、雪、水または、油がある場合）では、車いすの車輪が空回りしたり、車いすが転倒したりする可能性があります。
 - b 突然路面の状況が変化する場所（縁石、段差、穴、くぼみ）これらがあると転倒したり、使用者が車いすか

ら転落したりする危険性があります。

坂の終わりにある 2 cm ほどの段差でも、前輪がひっかかったり、車いすが前に倒れたりする危険性があります。)

- c 少しでも不安がある場合は、周囲の人に協力を求めてください。
8. 転落や転倒、操作不能の可能性を軽減するために
 - a 坂を登っている時は、身体を前に倒してください。身体を前に倒すことによって、坂を登るときに変化する重心位置を修復し、バランスを保ちます。
 - b 必ず、車いすのハンドリムをしっかり持ち、安定したスピードで操作してください。車いすを速く操作すると、安全に操作できなくなる可能性があります
 - c 少しでも不安な時は、周囲の人に介助を依頼してください。
 9. 仕事場や自宅のスロープ
スロープの設置を行う際には、必ず居住地域の建築法や条例に従ってください。設置に際しては、安全に走行できるように専門家に相談してください。サンライズメディカル社では、以下の条件を満たすことを推奨いたします。
 - a スロープの幅が 1.2 メートル以上のもの。
 - b スロープの縁にガードを付けてください。車いすが落下することを防ぎます。
 - c スロープの角度は自分が車いすを操作して安全に上がり下がりできる角度にします。
 - d 傾斜の表面は、平らで滑らない素材にしてください。
 - e スロープは丈夫な素材で作ってください。必要であれば、金具で止めて曲がったり、動いたりするのを防いでください。
 - f スロープの上と下には段差がないようにします。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

H. 移乗について

【警告】

1 人での移乗は危険です。1 人での移乗は、バランス感覚と敏捷性を必要とします。移乗時に常時車いすの上にはいない場合は特に

危険です。車いすからの落下を防ぐため、下記のことにご注意してください。

1. 正しい知識をもった専門家から、安全な移乗方法を教わってください。
 - a どのような体勢で移乗し、どのように自分の体重を支えればよいか学んでください。
 - b どのような体勢で移乗し、どのように自分の体重を支えればよいか学んでください。
2. まず、車いすの後輪ブレーキをかけ、車いすが動くことを防ぎます。

注意:

後輪をロックしただけでは車いすがスライドしたり、転倒や転落したりを防ぐことはできませんので、充分注意してください。

3. 空気入りタイヤの空気圧が適切であることを確認してください。空気圧が適切でないとブレーキが効かなくなる恐れがあり大変危険です。
4. 車いすをできるだけ移乗する場所に近付けて移乗を行ってください。可能であれば、トランスファーボードを使用してください。
5. 前輪キャスターを回転させ、キャスターを後進時の位置にしてください。
6. フットレストに気をつけて移乗を行ってください。可能であれば、フットレストを外すか、開閉し、移乗中、邪魔にならないようにしてください。
 - a フットレストとフットレストに、足がひっかからないように注意してください。
 - b 決してフットレストの上に立たないでください。フットレストに立つと、車いすが倒れ、怪我をする可能性があります。
7. 移乗する際、アームレストに引っ掛からないように注意してください。
8. 移乗中の落下を防ぐため、移乗した際にできるだけ深く座り、安定を確保してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの

転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

I. 縁石や段差について

【警告】

1. 介助者の方は必ずこの取扱説明書を読んで、すべての内容を理解してください。
2. 1人で縁石や段差を登ったり、降りたりしないでください。
3. 転倒防止ホイールを上にあげて使用できない状態にしてください。
4. 高い段差や縁石を越える場合は、必ず介助者にサポートしてもらってください。無理に段差を登ったり、降りたりすると転倒や転落をする恐れがあります。
5. 縁石や、段差を越えるときは、車いすをまっすぐ進めてください。斜めに進むと、転倒や転落の恐れがあります。
6. 車いすのボルトなどは、車いすで縁石や段差を登ったり、下がったりする時の衝撃で緩くなる可能性があります。緩んだ際は締め直してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や、周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

J. 階段

【警告】

1. 介助者がいない状況でこの車いすを階段で使用しないでください。転倒・転落する恐れがあります。
2. 介助者は必ず、この取扱説明書をお読みください。

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や、周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

K. エスカレーター

【警告】

介助者の有無に関わらず、絶対に車いすでエスカレーターを利用しないでください。車いすが転倒したり、使用者が落下したりする恐れがあります。

Ⅶ. 安全な使用方法について(介助者の方へ)

介助者は、実際に介助する前にⅤ章の「K. 介助を必要とする時のために」の「介助者の方へ」の項目を必ず読み、指示に従ってください。自分の能力に応じた安全な介助方法を見つけて実践してください。

A. ティルトについて

【警告】

ティルトを行う前に:

- 必ず、使用者の腕がアームレストの上で安定しているか、安定していない場合はアームレストの内側にあることを確認してください。
- 必ず、使用者の足がフットレストまたはレッグレストの安定した位置にあることを確認してください。
- ティルト駆動時には、手足や物などを挟まないよう充分注意してください。
- 前方にティルトした状態では、絶対に車いすを操作しないでください。
- アイリス専用のアクセサリ以外は絶対に取り付けしないでください。
- ティルト時にバックレストの角度が地面と平行よりも下になることは絶対にしないでください。

B. 縁石や段差の降り方について

車いす使用者が縁石や段差から後ろ向きに降りることを介助する際は、次の手順に従ってください。

1. 介助者は車いすの後ろに立ち、常に押手を持ちながら、車いすを操作してください。
2. 縁石や段差の2メートルほど手前で、車いすを回転し、車いすを後ろ向きに引いてください。
3. 介助者は後方を確認し、注意してまずは自分が縁石や段差を降りてください。
4. 車いすの後輪が縁石や段差の縁に来るまで、ゆっくりと車いすを介助者側に引き寄せます。そしてゆっくりと後輪を下の段に降ろしてください。
5. 後輪が安全に降りたことを確認したら、車いすを後ろに傾け

て前輪を浮かせます。この動作により、前輪が地面から上がり、縁石や段差に引っ掛かりません。

6. 車いすのバランスを保ちながら、ゆっくりと後ろに下がります。前輪が縁石や段差を越えた位置にきたことを確認したら、ゆっくりと前輪を地面に降ろしてください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

C. 縁石や段差の上り方について

【警告】

車いすが前向き状態で縁石や段差を上ることを介助する際は、次の手順に従ってください。

1. 介助者は車いすの後ろに立ち、常にプッシュ・ハンドルを持ちながら、車いすを操作してください。
2. 車いすを段差や縁石の前に移動後、押手を下方向に押して車いすを傾け、前輪が歩道の縁石や段差を越える高さまで上がっていることを確認します。
3. 車いすを傾けた状態で車いすを前進させ、前輪が段差や縁石を越えたところで前輪を下ろします。その際、必ず車いすの前輪が段差を越えていることを確認してください。
4. そのまま前進して、後輪が段差や縁石に当たったら、押手を持ち上げて後輪を上げ、前方へ車いすを押してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

D. 階段の上り方について

【警告】

1. 階段を上る際は、必ず2人以上の人に手伝ってもらってください。
2. 車いすを後ろ向きの状態で上げてください。
3. 車いすの後方に立っている介助者が車いすの動きをコントロールしてください。車いすをバランスのよい位置まで後ろに傾けてください。
4. 車いすの前方にいる方は前方のフレーム(ハンガー受け)を

しっかりと持ってください。ゆっくりとタイミングを合わせ
て上ってください。

5. 上記の手順を繰り返して、安全に階段を上ってください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、
車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者
や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

E. 階段の降り方について

【警告】

1. 車いすを下ろす際は、必ず 2 人以上の人に手伝ってもらっ
てください。
2. 車いすを前向きで下ろしてください。
3. 車いすの後方に立っている介助者が車いすの動きをコント
ロールしてください。
4. い。車いすをバランスのよい位置まで後ろに傾けてください。
5. 車いすの前方にいる方は、前方フレーム(ハンガー受け)をし
っかり持ってください。その後ゆっくりとタイミングを合わ
せて下りてください。
6. 上記の手順を繰り返して、安全に階段を下りてください

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、
車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者
や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

F. メンテナンス

【警告】

1. XI 章に記載されている表を参照し、メンテナンスを行って
ください。
2. 問題を発見した時は、車いすを使用せずに、購入した販売店
にご連絡ください。
3. 一年に一度は、販売店に車いすの総点検や安全確認そして調
整を行ってもらってください。

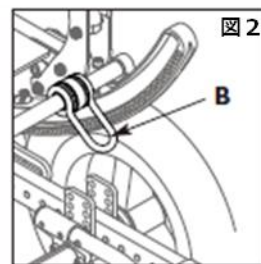
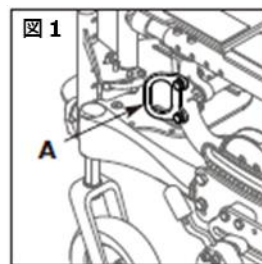
以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、
車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者
や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

G. トランジットオプション (車載用固定金具)の位置

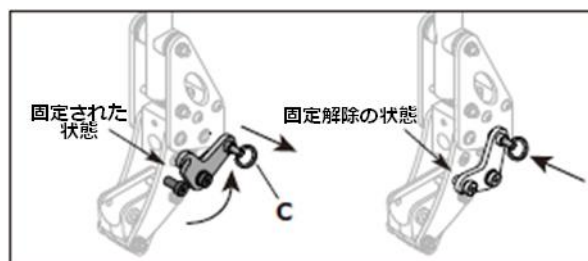
この注意事項およびV章とVIII章に記載されている注意事項もあ
わせてお読みください。

【警告】

1. 自動車に乗る際は、車いす使用者は、車いすから降りて自動
車のシートに座り、シートベルトを使用してください。
2. 車いすに乗ったまま車両に乗る際は、車いすと身体が前方に
向いた状態にしてください。
3. 使用者は、お使いの車いすの重量制限をお守りください。
 - クイッキアリスの場合 114kg
 - ヘビーデューティー仕様の場合は 159 kg
 - ジッピーアイリスの場合：75 kg
4. 図 1 および図 2 に、前方のトランジットオプション(A)と後
方のトランジットオプション(B)の位置が示されています。



5. 車両に車いすをしっかり、固定してください。
6. 車両に取り付けられている安全金具を図の A と B の位置に
取り付けてください。
7. 使用者に専用シートベルトをしてください。
8. ご使用の車いすにダイナミック・バックレスト・オプション
が装着されている場合には、車に乗せる前に必ずブッシュ・
ハンドル部分の固定レバーを操作し、バックレストが固定さ
れた状態になっていることを確認してください。



以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、
車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者
や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

Ⅷ. 部品、オプションについて

A. 転倒防止ホイール

【警告】

転倒防止ホイールは、通常の使用下で車いすの後方への転倒を防ぎます。

1. サンライズメディカルは、転倒防止ホイールの使用を勧めています。
 - a 車いすの操作に慣れていて、操作を安全に行える方以外は、転倒防止ホイールを使用してください。
 - b 車いすの調整や改造を行った時には、重心や操作性などが変わるので、少なくとも慣れるまでは、転倒防止ホイールを使用してください。
2. 転倒防止ホイールを使用する際は、転倒防止ホイールを下に向けた状態で、地面から3～5 cm に設定してください。
 - a 高い位置に設定すると、転倒防止ホイールは機能しません。
 - b 低すぎると、転倒防止ホイールが地面に当たったり、ひっかかったりして、転倒・転落の危険性があります。
3. 下記の状況以外では、転倒防止ホイールを使用してください。
 - a 介助者が介助している場合
 - b 障害物や段差を乗り越える際に、転倒防止ホイールが邪魔になる時。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

B. アームレスト

【警告】

アームレストを利用して、車いすを持ち上げる事はできません。

1. 絶対に、アームレストを持って車いすを持ち上げないでください。アームレストが外れたり、壊れたりする可能性があります、とても危険です。
2. 車いすを持ち上げる際は、必ず車いすのフレーム部分（脱着部品以外）を持ってください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、

車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

C. ストロローラー・ハンドル

【警告】

1. 折りたたみ可能なバックポストが装着されている場合は、バックポストを折りたたむ際に手を挟まないよう注意してください。
2. ストロローラー・ハンドルの調整を行う際、調整部分に指を挟まないよう注意してください。

D. ネジ類

【警告】

この車いすには高強度のネジ、ボルト、ナット類が使われています。純正のネジ、ボルト、ナット類以外を使用すると車いすの故障につながりますので、使用しないでください。

1. 必ず、サンライズメディカル社が提供した純正のネジ、ボルト、ナット類を使用してください。
2. 緩んだり、締め付けすぎたりすると、車いすの損傷や故障の原因となります。
3. 緩んだ場合、すぐに締め直してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

E. フットレスト

【警告】

フットレストは足を乗せる以外の目的で使用しないでください。

1. フットレストは、地面から6 cm 以上の高さに設定してください。
2. この高さより低く設定した場合、障害物に引っ掛けて、車いすが急に止まったり、倒れたりする危険性があります。
 - a 移乗の際の転落や転倒を防ぐために：
 - b フットレストに、足がひっかからないようにしてください。
3. フットレストに体重をかけないようにしてください。車いすが前に倒れる危険性があります。絶対に、フットレストを持

って車いすを持ち上げないでください。フットレストは、車いすの重量を支えるように設計されていません。さらにフットレストは着脱部品であり、外れる可能性があるのととても危険です。車いすを持ち上げる際は、必ず車いすのフレーム部分（脱着部品以外）を持ってください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる可能性があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

F. 空気入りタイヤ

【警告】

適切な空気圧は、タイヤの寿命を長くし、より快適な操作性が得られます。

1. タイヤの空気圧が低すぎたり、高すぎたりする時は、車いすを使用しないでください。タイヤの側面に記載されているタイヤの空気圧レベルを毎週確認してください。
2. 後輪の空気圧が低いと、ブレーキが効かなくなる危険性があります。予期せずに、車いすが動き出す可能性があり、危険です。
3. 片側のタイヤ空気圧が低いと、車いすが片寄り、操作不能になる危険性があります。
4. タイヤ空気圧が高すぎると、タイヤが破裂する恐れがあります。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

G. ポジショニング・ベルト(オプション)

【警告】

ポジショニング・ベルトは、姿勢を保持するものです。その他の目的に使用しないでください。誤ってポジショニング・ベルトを、姿勢保持以外の目的で使用した場合、怪我の原因になるばかりでなく、生命にも危険が生じます。

1. 使用者が車いすからずり落ちないようにしてください。車いすからずり落ちると、胸が圧迫され、窒息する恐れがあります。

2. ポジショニング・ベルトを装着する際は、使用者が快適に使用できるように締め具合を調整し、呼吸の妨げにならないように注意してください。適切な締め具合の目安として、ベルトを装着した際に、使用者の体とベルトの間に手のひらが入るスペースがあることを確認してください。

3. 姿勢保持装置を使用することで、使用者が車いすからずり落ちることを防止することができます。座位保持装置の使用については医療・リハビリの専門家に相談してください。

4. 緊急時に使用者が直ちにベルトの取り外しできることを確認してください。

5. 注意:

- a ポジショニング・ベルトは、抑制帯として使用しないでください。使用方法については医師の指示に従ってください。
- b ポジショニング・ベルトは、興奮状態の人、または昏睡状態の人には使用しないでください。
- c ポジショニング・ベルトを車のシートベルトとして使用しないでください。ポジショニング・ベルトは事故や急停止の際に、使用者が車いすから投げ出されることを防止できませんシートベルトの代わりとして使用すると、さらに大きな怪我につながる恐れがありますので、車で移動する際の安全ベルトとしては、必ず、車両に取り付けられたシートベルトを使用してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があり、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

H. 電動ユニット 【警告】

車いすの製造元であるサンライズメディカル社の許可なしに車いすに、電動ユニットは取り付けしないでください。

そのようなことを行うと:

1. 車いすの重心がかわるので、転倒や転落の危険性が増加します。
2. フレームに改造を加えると、保証が無効になります。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

I. プッシュ・ハンドル(オプション)

【警告】

介助者が車いすを操作する際は、車いすのプッシュ・ハンドル(押手)を使用してください。

1. プッシュハンドル(押手)は、介助者が車いすを安全に操作し、車いすの転倒や転落などを防ぐためのものです。介助者は必ずプッシュ・ハンドルを使って操作してください。
2. 車いすを使用する前に、プッシュ・ハンドルがしっかりと固定されていることを確認してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

J. クイックリリース・アクスル(取り外し式車軸)

【警告】

1. 必ず、後輪のクイックリリース・アクスルがしっかりとロックされていて外れないことを確認してから、車いすを使用してください。
2. 車軸が固定されていない場合、走行中に後輪がはずれて転倒・転落する危険性があります。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

K. 後輪位置の設定時の注意

【警告】

後輪位置を変更すると、車いすの重心が変わります。

1. 後輪を前方に動かすと、車いすが後ろに転倒する可能性が高くなります。
2. 使用者に適した 後輪(車軸)の位置については、医師やセラピストに相談の上決定してください。転倒する危険性がある

ような位置への後輪(車軸)の移動は行わないでください。

3. 後輪(車軸)の位置を変更したら、必ず、後輪ブレーキの位置も調整してください。
 - a 調整を行わないと、ブレーキが機能しない恐れがあります。
 - b ブレーキをかけた状態で、ブレーキバーが 4mm 程度タイヤにくい込むことを確認してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

L. 後輪ブレーキ(ホイールロック)

【警告】

後輪ブレーキは、走行中の車いすを減速したり停止したりするために設計されていません。後輪ブレーキは、車いすが完全に停止している時に後輪が回転しないようにするためのものです。

1. 絶対に、後輪ブレーキ(ホイールロック)を使用して走行中の車いすの減速や停止を行わないでください。そのような行為により、車いすが操作不能になることがあり、危険です。
2. 移乗の際には、後輪が動くことを防ぐために、左右両側のブレーキ(ホイールロック)をかけてください。
3. タイヤの空気圧が低いと、ブレーキ(ホイールロック)が効かなくなり、車いすは予期しない方向に動く可能性があり、危険です。
4. ロックしたときに、ブレーキバーが 4mm 程度タイヤにしっかりとくい込んでいることを確認してください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我をさせる危険性があります。

M. トランジットオプション(車載用固定金具)について 【警告】

米国においては、車いすを乗り物に積み込む際に以下の手順を守ることが定められています。以下の手順を参考に車いすを安全に固定してください。

1. 車いすに装着する固定金具は必ず安全基準に準拠した専用の車いす車載用固定金具を使用してください。バス、車、電車などに積み込む際は、その乗り物に取り付けられている専用の積み込み器具を使用してください。使用方法是それぞれの器具の製造元が定める方法に従ってください
2. この車いすは米国における衝撃テストにおいて、車いすを前向きに固定した状態に限り時速 30 マイル（約 48km）でぶつかった時の衝撃に耐えられることが実証されています。従って、車いすを固定するときには、必ず車いすを前向きに設置するようにしてください。
3. 移動中の使用者本人や周りの方の怪我の危険性を少なくするために、車に積みこむ際は、車いすに取り付けられているアクセサリ部品および呼吸器等の機械が引っかかさないように注意してください。必要であれば、それらを取り外し、車いすとは別に保管してください。
4. 車いすに取り付けられている姿勢保持のための部品はシートベルトやその他の事故の衝撃から使用者を守るための安全機器の代わりとして使用しないでください。
5. 車いすのフレームやフレームに取り付けられているパーツ類をサンライズメディカル社が使用を認める部品以外に変更しないでください。
6. 移動中の緊急停止や衝撃により車いすの本体が損傷する場合があります。そのような事故にあったことのある車いすは使用しないでください。

以上の警告に留意しないと、車いすの損傷、車いすからの転落、

車いすの転倒、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や周囲の方々に深刻な怪我を起こす危険性があります。

N. 呼吸器/バッテリー搭載用トレイ

注意:

このオプションはクイッキーアイリスのみに使用することができます。

注意:

このオプションはクイッキー アイリスのシート高が一番低い設定（38cm）の場合のみ装着することができます。

注意:

このオプションは、介助者用ブレーキまたはフットリリース式のティルト用レバーが装着されているクイッキーアイリスには使用することができません。

【警告】

車いすに呼吸器/バッテリー搭載用トレイの装着、またはバッテリーの取り外しをする際には、必ずお買い上げの販売店にご相談ください。車いすのその他の構成部品（ストラットチューブ、ティルト角度設定金具、キャスターブラケット等）と干渉しないように最適な位置にトレイを設置する必要があります。

【警告】

呼吸器/バッテリー搭載用トレイを使用する際は、使用者の体重、呼吸器、バッテリー、トレイ本体の重さを合わせた総重量がクイッキーアイリスの重量制限である 114 kg（ヘビーデューティー仕様の場合は 159 kg）を超えないようにしてください。

IX. 車いすの設定と調整

注意:

車いすの設定や調整をする際には、車いすを作業台等の平らで硬い表面の場所において行うことで正確性と効率が向上します。

注意:

トルクの設定（締め付け程度）とは、個々のネジ類に最適な締め付け度の設定です。クイッキーやジッピー車いすのネジ類を締める際はトルク・レンチを使用してください。他に指定がない時は、トルク設定 6.8Nm に設定して固定してください。

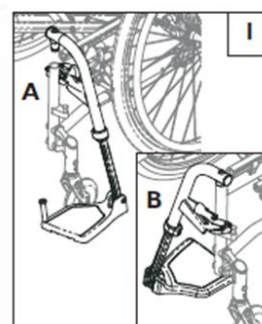
A. スイング・イン/アウト式フットレスト(60°70°及び 80°) [図 1,2]

注意:

60°のフットレストは、ジッピーアイリスにのみ装着することができます。

1. 取り付け方法[図 1]

- a フットレストを外側に開いた状態で、スイング・イン/アウト用ピボットサドルを車いすフレーム前方のフットレスト受けに差し込んでください。(図 1 の A 参照)
- b フットレストを内側へ向けて動かし、フットレストがカチッと固定されることを確認してください。(図 1 の B 参照)

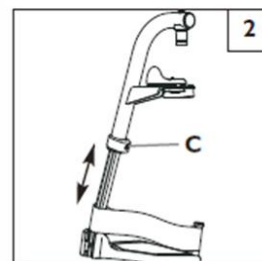


2. 取り外し方法（外側に向けて外す）

- a フットレストを取り外す時は、リリースラッチをフレーム外側に向けて押してください。
- b フットレストを外側に開くと、ロックが外れるので、上に引き上げて取り外してください。

3. 取り外し方法（内側に向けて外す）

- a フットレストを内側に回転させ取り外す際は、リリースラッチをフレーム内側に向けて押してください。
- b フットレストを内側に回転させ、その状態で上に引き上げて取り外してください。



4. フットレストの高さ調整方法[図 2]

注意:

フットレストの高さを調整する時は、フットレストと床との間に最低でも 5 センチの間隔が空くように設定してください。

- a フットレストについている固定ネジ(C) を緩めてください。(右図 2 参照)
- b フットレストを希望する高さに合わせてください。
- c ネジを 16.27Nm のトルクで固定してください。

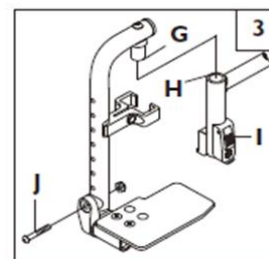
B. ヘビーデューティー・リフト・オフ・ハンガー(オプション) [図 3]

1. 取り付け方法

図 3 のピボット・サドル(G)をフレーム前方にあるフットレスト受け(H)へ差し込んで、固定されるまで下へ押してください。

2. 取り外し方法

リリースラッチ(I)のボタンを押しながらフットレストを上へ持ち上げて取り外してください。



3. フットプレート高さ調整方法（フロントマウント）

- a フットレストのブラケット内に装着されている固定ボルト (J) を緩めてください。
- b フットプレートを上下に動かし、希望する高さの調整穴に合わせてフットプレートを設定してください。
- c 固定ボルトを再度取り付けて固定してください。

C. 拘縮対応フットレストシステム（オプション）

このフットレストは、使用者の状態に合わせて固定方を選択することができます。

1. 外側に固定する方法[図 4]

フットレストチューブをフレームの一番外側に固定することで、フットレストチューブの位置がフレームの外側に位置するように設定することができます。

2. 内側で固定する方法[図 5]

フットレストチューブをフレームの中央部分に固定することで、フットプレートを外側に向かって位置するように設定することができます。

3. 高さ調整方法 [図 6]

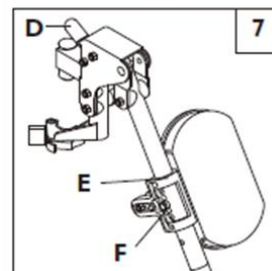
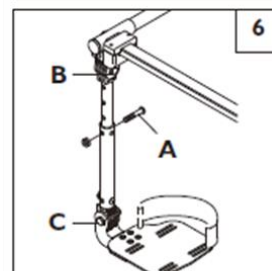
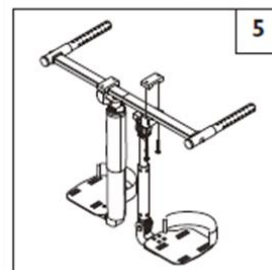
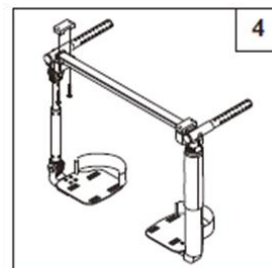
- a フットレストの固定ネジ(A)を緩めてください。
- b フットレストチューブの下部を上下に動かして希望する高さに設定し、固定穴の位置を合わせてください。
- c 固定ネジでしっかり固定してください。

4. フットレスト角度調整方法 [図 6]

- a フットレスト角度調整用ボルト (B)を緩めてください。
- b フットレストを前方、または後方へ動かして、希望する角度に設定してください。
- c 固定ネジでしっかり固定してください。

5. フットプレート角度調整方法 [図 6]

- a フットプレート接続部についているボルト(C)を緩めてください。
- b フットプレートを上下に動かし、角度を決めてください。
- c ネジでしっかり固定してください。



D. 高機能エレベータリング・レッグレスト（オプション）[図 7]

1. 取り付け方法

高機能エレベータリング・レッグレストの取り付け方法と、取り外し方法は、スイング・イン/アウト式フットレストを参照してください。

2. 高さ調整方法

- a フットレストの高さを上げるには、フットレストを持ち上げ、希望する高さに合わせてください。フットレストはその位置で自然に固定されます。
- b フットレストを下げるには、使用者が車いすに座った状態で固定解除レバー(D)を下げ、希望する高さに下げてください。フットレストはその位置で自然に固定されます。

3. ふくらはぎパッドの高さ調整方法

- a ふくらはぎパッドの取り付け部分(E)を外側にまわしてください。ボルトで固定されたパッドが調整可能な状態になります。

- b パッドを上下にスライドさせ、希望する位置に設定してください。
- c 適切な位置に合わせた状態で、パッドを内側へ戻してください。ボルトで固定される状態になります。

4. 延長チューブの長さ調整方法

- a レッグレストのネジ(F)を取り外してください。
- b フットプレートの位置を希望する位置に設定してください。
- c 取り付け穴に合わせて固定ネジ(F)を再度取り付けてください。
- d 固定ネジ(F)を締め直してください。

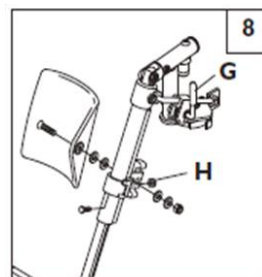
E. エレベーター・レッグレスト(オプション) [図 8, 9]

1. 取り付けおよび取り外し方法

エレベーター・レッグレストの着脱方法については「A. スイング・イン/アウト式フットレスト」に記載されている手順に従ってください。

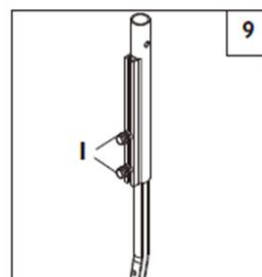
2. 高さ調整方法 [図 8]

- a レッグレストの高さを上げるには、レッグレストを持ち上げて希望の高さに合わせてください。手を放すとレッグレストは自然に固定されます。
- b レッグレストを下げるには、固定解除レバー(G)を下げ、希望する高さまで下げてください。レッグレストは自然に固定されます。



3. ふくらはぎパッドの高さ調整方法 [図 8]

- a ふくらはぎパッドの裏にある固定ナット(H)を緩めてください。
- b ふくらはぎパッド全体を上下にスライドさせてください。
- c ふくらはぎパッドを希望する位置に設定し、ナットをしっかりと締めてください。



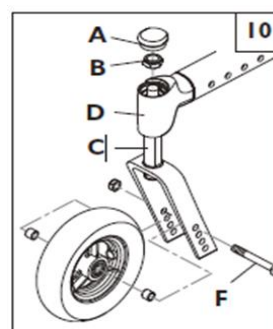
4. 延長チューブの長さ調整方法 [図 9]

- a フットレストチューブについているボルト(I)を緩めてください。
- b フットレストの高さを適切な位置に設定してください。
- c すべてのボルト(I)を締め直してください。

F. キャスター／フォーク [図 10]

1. 取り付け方法

- a キャスターハウジングのキャップ(A)を小さく前後に動かしながら取り外してください。
- b それぞれのキャスターに取り付けられている1つのナット(B)と、そのナットの下ワッシャーを取り外してください。
- c キャスターステム(C)をキャスターハウジング(D)に差し込み、キャスターステムにワッシャーを取り付けてください。
- d キャスターステムにナットを取り付け、一度しっかりとネジを締めてください。その後、1/8回転させ緩めてください。これを行うことによってキャスターがスムーズに回転します。
- e キャップをもとの位置に戻し、しっかり取り付けてください。



2. キャスターの高さ調整方法

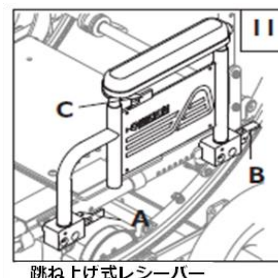
- a 固定ボルト(F)を緩めて取り外してください。

- b キャスターフォークに設けられた調整穴に合わせ希望する高さに設定してください。
- c 固定用ボルト (F) を再度差し込み、ボルトをしっかり締めてください。
- d 反対側のキャスターも同様に設定してください。

G. デュアル・ポスト・アームレスト [図 11, 12]

1. 取り付けおよび取り外し方法

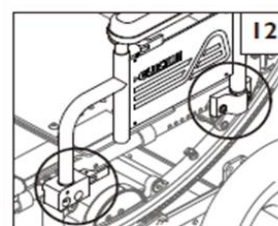
- a アームレストがしっかり固定されている時は、固定レバー(A)が図のように外側に向いている状態になります。
- b 固定レバー(A)を外側に開き、アームレストの固定を解除してください。
- c アームレストの取り付けおよび取り外しが可能になります。
- d 固定レバーを元の位置に戻してください。



跳ね上げ式レシーバー

2. 高さ調整方法(オプション)

- a アームレスト上部のレバー(C)を外側に引いてください。
- b アームレストの高さを希望する位置に合わせてください。
- c 固定レバーを戻し、固定してください。
- d アームレストのパッドの部分を持ち、高さが固定される位置まで動かしてください。



標準レシーバー

3. 跳ね上げ機能の操作方法(オプション)

- a 前方の固定レバー(A)のみを外し、アームレストの固定を解除してください。
- b アームレストは後方部分がレシーバーに取り付けられた状態のままでアームレストの前方のみが動く状態になります。アームレストを後方へ跳ね上げてください。
- c アームレストを完全に取り外す際は、後方の固定レバー(B)を上へ引いてください。
- d アームレストを再度使用できる状態にするには、アームレストを下げて元の位置に戻してください。
- e 固定レバーを元に戻し、アームレストを固定してください。

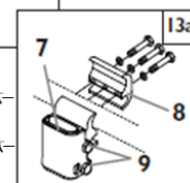
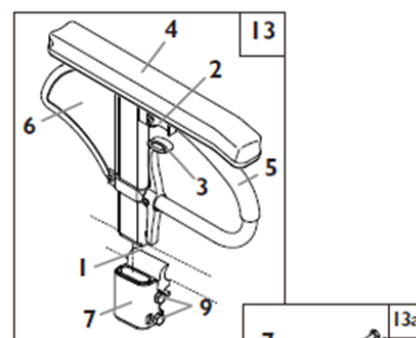
H. 高さ調整機能付アームレスト(オプション) [図 13, 13a]

1. 取り付け方法

- a アームレストの外側の支柱(1)を車いすフレームにあるレシーバー(7)へ取り付けてください。
- b アームレストがカチッという音とともに固定されます。

2. 高さ調整方法

- a アームレスト上部の固定レバー(2)を解除してください。
- b アームレストパッドを上下に動かして、希望の高さに設定してください。
- c 固定レバーを戻し、高さを固定してください。
- d アームレストのパッドの部分を持ち、高さが固定される位置まで動かしてください。



- 1. 外側アームポスト
- 2. アームレスト・リリース・レバー (高さ調整用)
- 3. アームレスト・リリース・レバー
- 4. アームレスト・パッド
- 5. トランスファー・バー
- 6. サイド・パネル
- 7. アームレスト・レシーバー
- 8. アームレスト・クランプ
- 9. レシーバー調整用ハードウェア

3. 取り外し方法

- a 固定レバー(3)を引き、アームレストレシーバー(7)からアームレストを取り外してください。

4. アームレストの再取り付け方法

- a アームレストをレシーバー(7)へ取り付けてください。
- b 固定レバー(3)を固定される位置に戻し、アームレストを固定してください。

5. アームレスト・レシーバーの微調整方法

アームレストをレシーバーに取り付けた時の締め具合を微調整することができます。

- a アームレスト・レシーバーの側面についている4つのボルト(9)をすべて緩めてください。
- b アームレストをレシーバーに取り付けた状態で、レシーバーが使用者の締め具合になるように調整してください。
- c 4つのボルト(9)を締め直してください。

I. ロック付きフリップアップ・アームレスト [図 14]

1. 跳ね上げ機能の操作方法

- a 上部固定レバー(B)を解除してください。
- b アームレストを後方へ跳ね上げてください。
- c アームレストを下げ、元の位置に戻してください。
- d 固定レバー(B)は、自然に固定される位置に戻ります。

2. 高さ調整方法

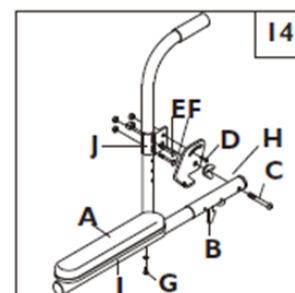
- a アームレストチューブ固定ボルト(C、D)を緩め、アームレストチューブを取り外してください。
- b クランプ固定ボルト(E、F)を緩め、クランプ(J)を取り外してください。
- c クランプ(J)を上下に動かし希望する高さに合わせてください。
- d クランプ固定ボルト(E、F)を締めてください。
- e アームレストチューブを再度取り付け、アームレストチューブ固定ボルト(C、D)をしっかり締めてください。
- f 反対側のアームレストも同様に設定してください。

3. 角度調整方法

- a アームレストチューブ固定ボルト(D)を緩めてください。
- b アームレスト角度調整用プレートにある穴を利用して、アームレストの角度を希望する位置に合わせてください。
- c アームレストチューブ固定ボルト(D)をしっかり締めてください。

4. 長さ調整方法(オプション)

- a フォームグリップまたは、アームパッド(A)をアームレストから取り外してください。
- b アームレストパッド固定ネジ(G)を緩めてください。
- c スリーブ(I)を適切な長さに合わせてください。
- d アームレストパッド固定ネジ(G)を締め直してください。
- e フォームグリップ、または、アームパッドを再度取り付けてください。



ロック付きフリップアップ・アームレスト

- A. アームパッド
B. 上部固定レバー
C、D. アームレストチューブ固定ボルト
E、F. クランプ固定ボルト
G. アームレスト・パッド固定ネジ
H. フリップバック・チューブ
I. スリーブ
J. クランプ

J. 転倒防止ホイール(後方) [図 15,16]

車いすに転倒防止ホイールを取り付けることをおすすめします。

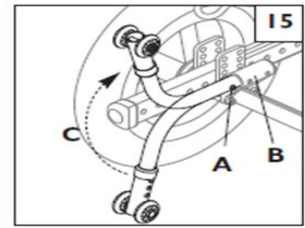
注意:

転倒防止ホイールの調整を行う時は、トルク設定 13.5Nm.で行ってください。

F

1. 転倒防止ホイールをレシーバーへ取り付けの方法

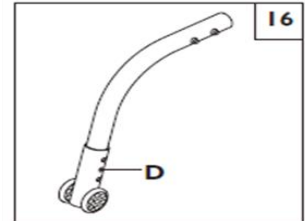
- 転倒防止ホイールの固定解除ピン(A)をしっかり押すことで、リリースピンがチューブ内に収まります。
- 固定解除ピンを押したままの状態ではレシーバー(B)へ転倒防止チューブを差し込んでください。
- カチッという音がしてレシーバー(B)の穴から固定解除ピンが出るまで転倒防止ホイールを動かしてください。
- 上記の手順を繰り返し、反対側の転倒防止ホイールも取り付けてください。



2. 転倒防止ホイールを収納する方法

介助者が車いすを押す場合や、障害物を越えたり、縁石を上がったりする場合は、転倒防止ホイールを上にあげてください。

- 転倒防止ホイールの固定解除ピン(A)を押してください。
- 固定解除ピンを押さえながら、転倒防止ホイール(C)を上へ回転させてください。
- 固定解除ピンから手を離してください。
- 上記の手順を繰り返し反対側の転倒防止ホイールを上へ上げてください。
- 障害物や縁石を越えた後は、転倒防止ホイールを元の機能する状態に戻してください。



3. 転倒防止ホイールの調整方法

転倒防止ホイールは地面から約 3.8cm から 5cm の高さに設定してください。設定の高さが適切でない場合は、転倒防止ホイールの調整を行ってください。

- 転倒防止ホイールの固定解除ピン(D)を押してください。リリースピンがチューブ内に収まります。
- 部品を上下に動かして、調節穴の一つに固定解除ピンを合わせて固定してください。
- 固定解除ピン(D)を離してください。
- 上記の手順を繰り返して、反対側の転倒防止ホイールの高さを設定してください。必ず両方のホイールが同じ高さになるように設定してください。

K. ティルト・イン・スペース機能

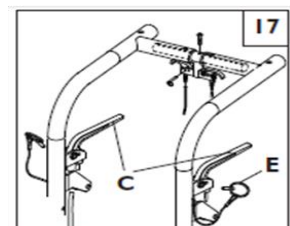
クイッキーアイリス/ジッピーアイリスはティルト機構(ティルト・イン・スペース)が取り付けられた状態で工場から出荷されます。ケーブルに連結したトリガー式のティルト機構により、ティルト状態のまま車いすを固定することができます。

ティルト機構は、55°モデル、40°モデルの2種類から選択することができ、それぞれ55°モデルの場合、-5°~50°、0°~55°、5°~60°、40°モデルの場合、-5°~35°、0°~40°、5°~45°の中からご注文時に設定された範囲で稼働します。

ティルト角度は、それぞれのモデルで選択可能な3種類の可動範囲の中で、設定を変更して使用することができます。後述の「T. ティルト角度の範囲設定」を参照してください。ティルト角度の範囲設定は必ずお買い上げの販売店に依頼して行うようにしてください。

1. 両手レバー操作式ティルトの操作方法 図[17,18]

- ティルト操作レバー(C)を両方とも握ってください。シートの固定が解除され、シートと背もたれの部分が回転します。
- ティルト角度計(D)でティルト角度を確認することができます。



- c 不意にティルト角度が変わらないように、ティルト固定ピン(E)をレバーへ差し込んでください。

2. フットリリース式ティルトの操作方法 図[18,19]

- a 図のフットペダル (F) を踏むとティルト機構の固定が解除され、シートと背もたれの部分が回転します。フットペダルから足を放すと、ティルト機構のロックが再び機能し、車いすの角度が固定されます。
- b ティルト角度計(D)でティルト角度を確認することができます。

3. ティルト角度の制限機能 [図 20]

ティルトストップ(G)を使用して、ティルトの範囲を制限することができます。

- a 固定ネジ (H)を緩め、ティルトストップ(G)を取り外してください。
- b ティルトストップ (G) をティルトロッカー(I)上の前方、または、後方の制限したい場所へ取り付けてください。
- c ティルトストップ(G)で両側からティルトロッカー(I)を挟み込むように同じ位置に合わせて固定ネジ (H) をしっかり固定してください。

4. ケーブルの調整方法 [図 21]

注意:

部品のメンテナンスには潤滑油などを使用しないでください。

- a ジャムナット(A)を緩めてください。
- b ケーブルのたるみがなくなるまで、ケーブル調整金具(B)を回してください。
- c ジャムナット(A)をしっかり締めてください。

L. バックレストとストローラー・ハンドル(オプション) [図 22]

1. バックレストの角度調整方法

- a バックレスト後方の固定ボルト(C)を緩めてください。
- b バックレスト前方の調整ボルト(D)を緩めて取り外してください。
- c 角度調整用の穴を使用し、バックレストを希望する角度に設定してください。
- d バックレスト前方の調整ボルト(D)をしっかり締めてください。
- e バックレスト後方の固定ボルト(C)を締め直してください。
- f 上記の手順に従ってバックレストの反対側も同様に設定してください。

重要:

バックレストの角度は、必ず両側とも同じ角度に設定してください。

注意:

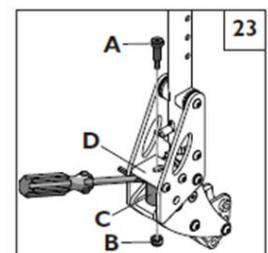
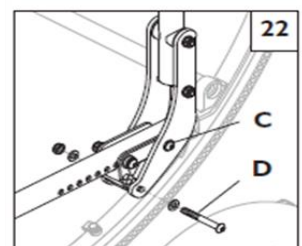
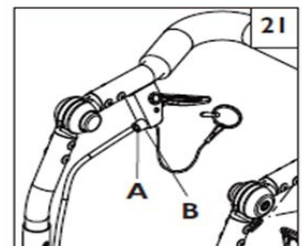
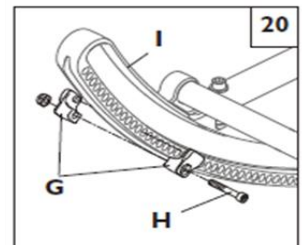
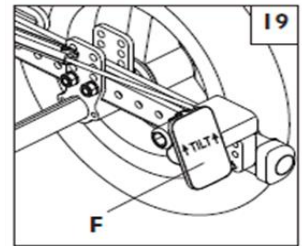
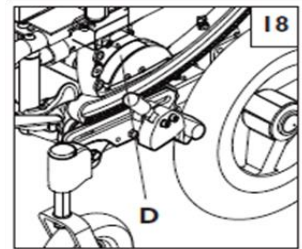
バックレストを固定する際は、トルクを 27Nm.に設定し固定してください。

注意:

バックレスト角度の変更を行った場合、車いすの重心も必要に応じて設定してください。

2. ダイナミックバックレストの弾力材の交換方法 (ダイナミックバックレスト使用時のみ) [図 23]

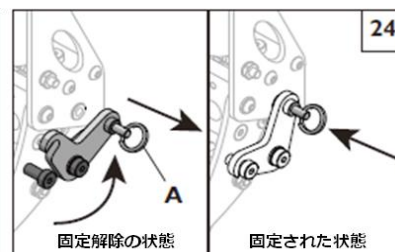
- a 弾力材を固定している固定ネジ (A) とロックナット(B)を取り付け金具から外してください。



- b マイナスドライバーを使用して弾力樹脂 (C) をゆっくりと取り外してください。
- c 新しい弾力材を取り付け金具の中に入れてください。このとき、弾力材に空いている穴と取り付け金具に空いている穴 (D) の位置が合うように注意してください。
- d 固定ネジ (A) とロックナット (B) を元に戻してしっかりと固定してください。

3. ダイナミックバックレストの固定/固定解除方法[図 24]

- a ダイナミックバックレストの固定を解除するには、固定ピン (A) を外して、金具を下の方に回転させてください。固定ピン (A) を回転させた位置で差し込んでください。
- b 再度固定する際には、固定ピン (A) を外して、金具を上の方に回転させてください。固定ピン (A) を回転させた位置で差し込んでください。

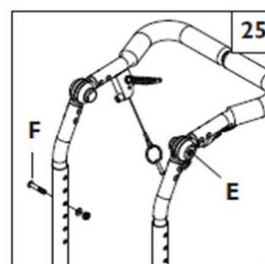


【警告】

ダイナミックバックレストが装着されている車いすを自動車等に乗せて移動する際には、積み込む前に必ずバックレストが固定された状態になっていることを確認してください。

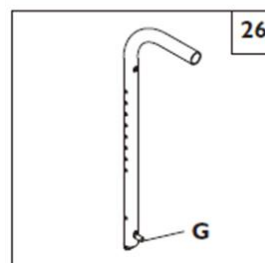
4. ストローラー・ハンドルの角度調整方法 [図 25]

ストローラー・ハンドルの角度を調整するには左右それぞれについている黒いボタン(E)を両方同時に押してください。ストローラー・ハンドルの固定が解除され、角度の変更ができます。希望する角度でボタンを離すと、角度が固定されます。



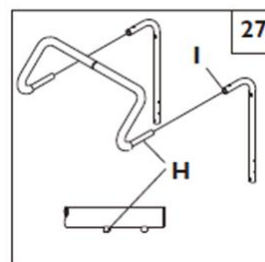
5. 高さ調整方法 [図 25]

- a 左右のバックレストチューブに一つずつ付いている固定ボルト(F)を取り外してください。
- b バックレストの高さを希望する高さに合わせてください。
- c 左右のボルト(F)を取り付けて締め直してください。



6. バックポストの折りたたみ方法[図 26]

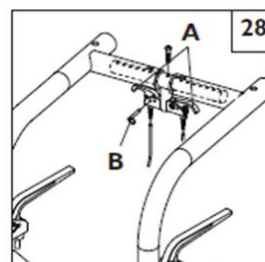
- a バックポストを前方へ折りたたむ場合は、固定解除ピン(G)を指で上げた状態で、バックポストを前に倒してください。
- b 再度使用できる状態にするにはバックポストを持ち上げて元に戻してください。バックポストが自然に固定されます。使用する前にしっかりとバックポストが固定されていることを確認してください。



M. 延長ストローラー・ハンドル(オプション)

1. 取り付け方法 [図 27]

- a ストローラー・ハンドルのボタン(H)を押してください。固定解除ピンがチューブの内側に収まります。
- b 延長チューブをバックポストのレシーバー(I)の穴に固定されるまで差し込んでください。



N. リクライニング・バックレスト

リクライニング機能は、工場出荷時に取り付けられています。

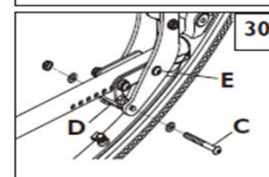
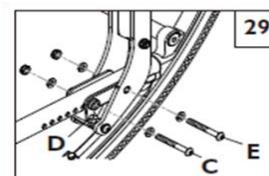
1. リクライニング方法 [図 28]

- 両方のリクライニングレバー(A)を同時にしっかり握ってください。レバーを放すと、バックレストが固定されます。バックレストを倒すことができる範囲は、0°から 60°までです。
- 不意にリクライニングしてしまうことを防ぐために、固定ピン(B)をリクライニングレバーの金具部分に差し込んで固定することができます。また、リクライニング角度を調整した後は、安全のためレバーを固定してください。

O. フレームの奥行き調整方法

1. バックレストの調整方法 [図 29, 30]

- バックレスト下部の取付金具にある固定ボルト(C)及び (E) を緩めて、取り外してください。反対側も同様にボルトを外してください。
- バックレストをシートレールに沿ってスライドさせ希望する位置に合わせてください。
- 取付け金具のボルト(C)及び (E) を元の位置に戻して固定してください。反対側も同じ位置に取り付けてください。

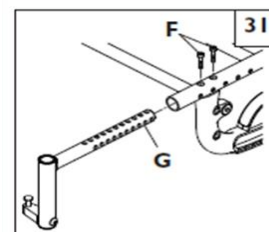


重要:

シート奥行きは必ず左右同じ位置に設定してください。

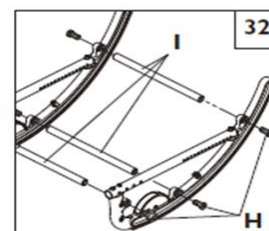
注意:

バックポストを固定する際は、トルクを 27.1Nm に設定して締め付けてください。



2. ハンガーレシーバーの調整 [図 31]

- シートレールの六角ネジ(F)を緩めて取り外してください。
- シートレールのハンガーレシーバー(G)をスライドさせて希望する位置に設定してください。
- 六角ネジを再度取り付けて、しっかり固定してください。
- 上記の手順に従って反対側も同様に設定してください。



重要:

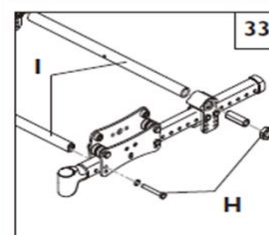
この設定を行った場合は、ベースフレーム上に取り付けられているティルト角度設定金具の位置を併せて調整する必要があります。

重要:

左右のハンガーレシーバーの設定位置は、必ず同じ位置に設定してください。

注意:

ハンガーレシーバーを固定する際は、トルクを 27.1Nm に設定して締め付けてください。



P. フレームの幅の調整 [図 32, 33]

ストラットチューブの長さを変更することによって、使用者の成長に合わせ車いすのフレーム幅を変更する事ができます。

1. フレーム幅の調整方法

ジッピーアイリスに使用されているフレームは成長対応キットに含まれるパーツと交換することによって使用者の成長に合わせた車いすのサイズを変更することができます。

- a ストラットチューブ(I)の両側に付いている固定ボルト (H) をすべて取り外してください。
- b 使用者の成長にあった適切な長さのストラットチューブに交換してください。
- c ストラットチューブの両端に固定ボルト(H)を取り付けて固定してください。
- d 上記の手順を参考にその他のストラットチューブを設定してください。

重要:

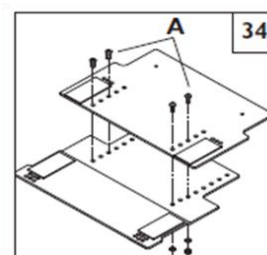
ストラットチューブの位置は両側とも同じ位置に設定してください。ティルトロッカー部分のフレーム幅を変更した場合には、トルクを 22.6Nm に設定し締め付けてください。また車いす下部のベースフレーム部分の幅を固定する場合は、トルクを 17Nm に設定し締め付けてください。

Q. シートパン [図 34, 35]

アイリスのシートパンは、奥行きと幅の調整が可能です。

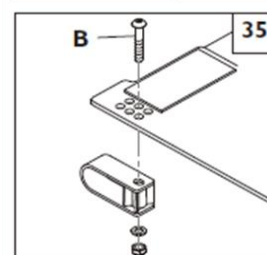
1. 奥行き調整方法 [図 34]

- a すべての固定ボルト(A)を緩めて、取り外してください。
- b シートパンの奥行きを希望する位置に設定してください。
- c 固定ボルトを再度取り付けてしっかりと固定してください。



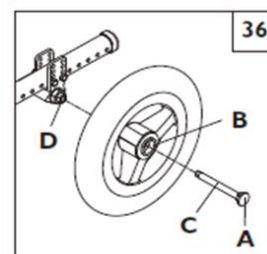
2. 幅の調整方法 [図 35]

- a すべての固定ボルト(B)を緩めて、取り外してください。
- b シートパンを適切な幅に設定してください。
- c ボルトを再度取り付けてしっかりと固定してください。



R. クッションの取り付け方法

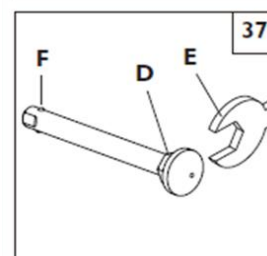
- 1. クッションの裏表をよく確認し、取り付けパーツが付いている部分を下向きにしてシートパンの上にクッションを置いてください。
- 2. クッションの前後が間違っていないか、よく確認して使用してください



S. クイックリリース・アクスル（取り外し式車軸） [図 36,37,38]

1. 後輪の取り付け方法/取り外し方法(オプション)

車いすをご使用になる前に、必ず後輪アクスルがしっかりと固定されていることを確認してください。アクスルが固定されていないと、後輪が外れ、使用者が車いすから転倒するおそれがあります。



注意:

アクスルは、クイックリリース・ボタン(A)が完全に外側に出ない限り固定されません。

2. ホイールの取り付け方法 [図 36]

- a 後輪ホイールの本体についているクイックリリース・ボタン(A)を押してください。このボタンをしっかり押す事によって、アクスルの先についているボール状のベアリングがアクスルの中に入った状態になります。

- b 後輪のハブに、アクスルを通してください。
- c そのままボタン(A)を押しながら、アクスル(C)をアクスル受け(D)に通してください。
- d ボタンを離し、後輪を固定してください。もし、固定されない場合は、アクスルの長さを調整してください。
- e 上記の手順に従って反対側の後輪アクスルを調整してください。

3. ホイールの取り外し方法 [図 36]

- a クイックリリース・ボタン(A)をしっかり押してください。
- b ボタンを押したままアクスル(C)をアクスル受け(D)からホイールを取り外してください。
- c 上記の手順に従って反対側の後輪ホイールを取り外してください。

4. アクスル受けの調整方法 [図 37]

後輪が完全に固定できない場合や、装着後に余分な緩みがある場合にはアクスル受けの調整を行ってください。

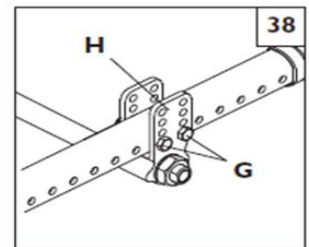
- a 3/4"レンチ(E)を使用して、アクスルの外側のナットを回転させて長さを調整します。
- b アクスル全体が回転しないように 1/2"レンチでアクスルの反対側のボールベアリング (F)を押さえてください。
- c ナットを反時計回りにまわすことで、アクスルが固定されます。
- d アクスルを固定する時にはおよそ 0.5mm の余裕があるように設定してください。

5. 車いすの重心位置について

車いすの前後にかかる体重の割合は、アクスルの位置をフレーム上のどこに設定するかによって大きく変化します。アクスルを後方にすると、車いすが安定することで後方に転倒する危険性が減少します。それに対して、アクスルを前方に設定すると、より多くの体重が後輪ホイールにかかり、後方に倒れる危険性が増加します。また、車いすの前方がより軽くなりより少ない力で回転することが可能になり更に、ホイールベースが短くなるので、回転するとき際に、より少ないスペースで車いすの操作が可能になります。

6. アクスル位置の調整方法 [図 38]

- a 両側の後輪ホイールを取り外してください。
- b アクスルプレート(H)から固定ボルト(G)を取り外してください。
- c アクスルプレートを希望する位置に設定してください。
- d 固定ボルト(G)を差し込み、しっかり締めてください。
- e 上記の手順を繰り返して反対側のアクスルプレートの設定を行ってください。



重要:

アクスルプレートは必ず左右を同じ位置に設定にしてください。

重要:

アクスルプレートの調整は、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

注意:

アクスルプレートを固定する際は、トルクを 13.5Nm に設定して固定してください。

7. アクスルの高さ調整方法 [図 38]

- a すべての固定ボルト(G)を緩めて、取り外してください。
- b アクスルの(H)に設定穴を利用し、アクスルを希望する高さに合わせてください。
- c 元の位置にボルトを戻し、しっかり締めてください。

- d 上記の手順を繰り返して反対側のアクスルの高さ調整の設定を行ってください。

重要:

アクスルプレートは必ず左右を同じ高さに設定にしてください。

重要:

アクスルプレートの調整は、必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

注意:

アクスルプレートを固定する際は、トルクを 13.5Nm に設定して固定してください。

注意:

アクスルの設定をする際は、車いすのフレームが常に水平に保たれていることを確認してください。

T. ティルト角度の範囲設定 [図 39, 40]

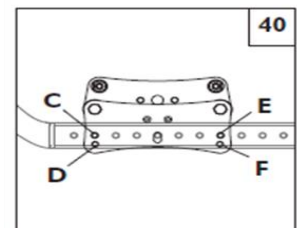
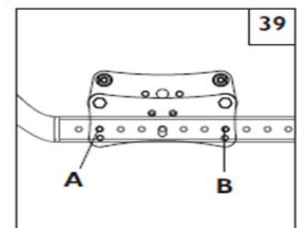
アイリスは、シートを最大 55°または 40°までティルトさせることができます。 このそれぞれのティルト範囲の中でシートが実際に可動する角度の範囲を設定することができます。ティルト角度の設定を行うには、あらかじめ定められた 3 つの範囲から選択し、部品の調整を行う必要があります。

注意:

ティルト角度の範囲設定は必ずお買い上げの販売店に依頼してください。

1. 調整方法[図 39,40]

- a 車いすのフレーム後方に装着されているティルト角度設定金具の固定ボルト(A)および(B)を緩めて取り外してください。
- b 以下の 3 つの設定パターンから 1 つを選んでティルト角度設定金具の該当する固定穴と車いすのフレームを合わせてください（各角度範囲に対応する設定方法については、下記の 2 と 3 を参照してください。）
- c 固定ボルトを再度取り付けて固定してください。



重要:

ティルト角度設定金具は必ず左右同じ位置に設定してください。

注意:

固定金具の締め付けにはトルク設定 13.5Nm.に設定して作業を行ってください。

2. 最大ティルト角度が 55°のとき [図 40]

- a ティルト範囲を-5°から 50°に設定する場合は、ティルト角度設定金具の固定穴(C)および(F)を使用してください。
- b ティルト範囲を 0°から 55°に設定する場合は、ティルト角度設定金具の固定穴(C)および(E)を使用してください。
- c ティルト範囲を 5°から 60°に設定する場合は、ティルト角度設定金具の固定穴(D)および(E)を使用してください。

3. 最大ティルト角度が 40°のとき [図 40]

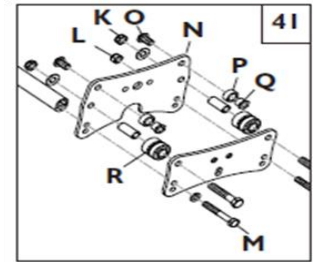
- a ティルト範囲を-5°から 35°に設定する場合は、ティルト角度設定金具の固定穴(C)および(F)を使用してください。
- b ティルト範囲を 0°から 40°に設定する場合は、ティルト角度設定金具の固定穴(C)および(E)を使用してください。

- c ティルト範囲を 5°から 45°に設定する場合は、 ティルト角度設定金具の固定穴(D)および(E)を使用してください。

4. 上部ティルト受けローラーの交換方法[図 41]

注意:

ティルト角度設定金具に装着されている上部ティルト受けローラーの交換作業を行うときは 4 つのローラーすべてを交換することを強く推奨します。また各部品に潤滑油を注油しないでください。

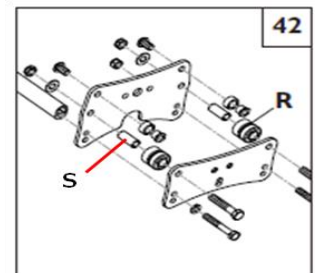


- ケーブル先端の固定ピンについているブラケットナットを緩めてください。
- ローラー・ナット(K)とシャーシーの固定ナット(L)、およびベースストラットボルト(M)を緩め、ベースストラットチューブを取り外してください。
- 内側のティルト角度設定金具のプレート(N)を車いすの中心部に向かってスライドさせてください。
- プレート両側のボタン頭ネジ(O)を緩めて、取り外してください。
- 古い上部ローラー(P)を上部ローラーシャフト(Q)から外してください。その後、新しい上部ローラーを取り付けてください。
- ティルト角度設定金具のプレート(N)に上部ローラーシャフト(Q)を再度取り付け、ボタン頭ネジ(O)を締めてください。
- フレームにティルト角度設定金具のプレート(N)を再度取り付けてください。上記のネジやボルト類(K,L)およびストラットチューブ(M)をすべて元の場所に戻し、しっかり締めてください。
- ケーブル先端の固定ピンがティルトロッカーの設定穴の中心に設定され、しっかりと固定されるように設定してください。確認後、ケーブル先端の固定ピンのブラケットナットを固定してください。
- 上記の手順を繰り返して反対側も同様に設定してください。

5. 下部ティルト受けローラーの交換方法 [図 41,42]

注意:

ティルト角度設定金具に装着されている下部ティルト受けローラーの交換方法作業を行うときは4つのローラーすべてを交換することを強く推奨します。また各部品に潤滑油を注油しないでください。



- ケーブル先端の固定ピンについているブラケットナットを緩めてください。
- ローラー・ナット(K)とシャーシーの固定ナット(L)、およびベースストラットボルト(M)を緩め、ベースストラットチューブを取り外してください。
- 内側のティルト角度設定金具のプレート(N)を車いすの中心部に向かってスライドさせてください。
- 古い下部ローラー(R)を下部ローラーシャフト(S)から外してください。その後、新しい下部ローラーを取り付けてください。
- フレームにティルト角度設定金具のプレート(N)を再度取り付けてください。上記のネジやボルト類(K,L)およびストラットチューブ(M)をすべて元の場所に戻し、しっかり締めてください。
- ケーブル先端の固定ピンがティルトロッカーの中心に設定され、しっかりと固定されていることを確認後、固定ピンのナットを固定してください。
- 上記の手順を繰り返して反対側も同様に設定してください。

注意:

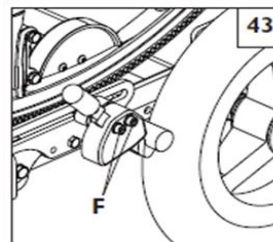
下部ローラーの設定を行うときは、トルク設定 17Nm で作業を行ってください。

U. 後輪ブレーキ

後輪ブレーキは、クイッキー/ジッピーアイリスの標準装備として工場出荷時に取り付けられます。

1. 取り付け位置の調整方法 [図 43]

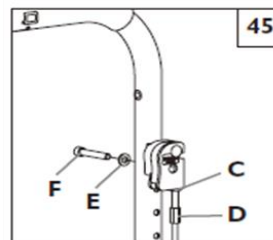
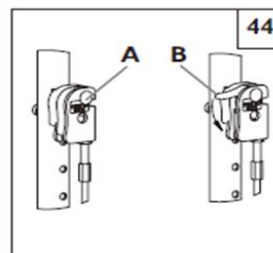
- 後輪ブレーキに装着されている 2 つの固定ネジ(F)を緩めてください。
- ブレーキが確実にかかる位置までブレーキ全体を後輪へ近付けてください。
- 固定ネジ (F) をしっかり締めてください。



V. ハブロック [図 44, 図 45]

ハブロックの操作方法 [図 44]

- ハブロックを使用して後輪をロックするには、操作ボタン(A)を押し、レバー(B)を外側に回転させてください。
- ハブロックの固定を解除するには、操作ボタン(A)が元に戻るまでレバー(B)を指で下に押してください。
- ハブロックは左右片側ずつをロックするように設計されています。両方の後輪をロックする時には必ず両方のボタンが押されていることを確認してください。



注意:

車いすの走行中に、ハブロックを使うことは大変危険ですので使用しないでください。

ハブロックケーブルの調整方法 [図 45]

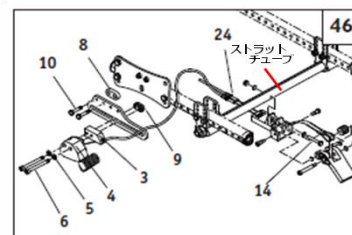
- ケーブルの固定ナット(C)を 10mm レンチを使用して緩めてください。
- 調整ネジ (D) を回し、必要に応じて、ケーブルの張り具合を調整してください。調整ネジを上に向かって回すと、ケーブルの張りが緩くなり、下に向かって回すと、きつく張るように調整できます。
- ケーブルを適切な張り具合に調整後、ジャムナット(C)を再度締め直してください。
- 上記の手順を繰り返し、反対側のケーブルを調整してください。

ハブロックレバーの取り付け位置調整方法 [図 45]

- バックレストとレバーを固定している六角ネジ(F) とワッシャー(E)を取り外してください。
- バックレストチューブ上の適切な固定穴にレバーを固定し、六角ネジ(F) とワッシャー(E)を再度締め直してください。
- 上記の手順を繰り返し、反対側のハブロックレバーを調整してください。

W. 介助者用ブレーキの取り付け方法 [図 46]

- 車いすから後輪ホイールを取り外してください。
- 1/4" x 1-3/4"ネジとナット及びワッシャー (図の 14 番) を使用して、介助者用ブレーキマウントキットをストラットチューブに取り付けてください。
- お使いの車いすにハイブッシュ式後輪ブレーキが取り付けられている場合は、 M6 ボル



ト（図の 6 番）と調整ナット（図の 9 番）を取り外し、ハイプッシュ式の後輪ブレーキを取り外してください。後輪ブレーキのスライドプレートが車いすに取り付けられた状態で、下記の手順 5 に進んでください。お使いの車いすにハイプッシュ式後輪ブレーキが取り付けられていない場合は、下記の手順 4 に進んでください。

4. 後輪ブレーキのスライドプレートを車いすの両方にあるローラーに 1/4 インチ六角ボルト（図の 10 番）およびマウントブロック（図の 8 番）をそれぞれ取り付けてください。後輪ホイールのアクスルの設定位置がベースフレームよりも、上部にある場合は、スライドプレートの位置を下向きにして取り付けてください。スライドプレートは、後輪ホイールのサイズによって通常よりも前方に取り付けたり、逆付けしたりすることができます。
5. 左右のブレーキレバー（図の 4 番）を介助者ブレーキ用スペーサーブロック（図の 3 番）、固定ネジ（図の 6 番）ロックワッシャー（図の 5 番）、及び調整用ナットを使用してスライドプレートに取り付けてください。調整用ナットに記されている「R」（車いすの右側）と「L」（車いすの左側）の目印をよく確認し、車いすの右側、左側にそれぞれにナットを取り付けてください調整用ナットが正しく取り付けられている場合には、ナットの楕円形をした突起の部分がサイドプレートの溝の部分にしっかりとハマっている状態になります。この段階では、ボルトを締め付けしないでください。左右のブレーキレバー（図の 4 番）を車いすの前方方向に向かってスライドプレートの端までにスライドさせてください。
6. 車いすに後輪ホイールを再度取り付けて、左右のブレーキレバーを後方にスライドさせてブレーキを解除した状態のときタイヤとの距離が 6 ミリほど空くように設定してください。タイヤとブレーキの位置が正しく設定できない場合は、スライドプレートの位置を再調整し固定してください。
7. 介助者用ブレーキの溝部分にブレーキケーブルの端についているスタッドをスライドさせて取り付けてください。ケーブルを押さえながらその端を図 3 番のスペーサーブロックについている溝の部分に取り付けてください。ケーブルが周囲の可動部品に引っかからないように注意しながら配線して、付属の固定用ヒモ（ジップタイ）を取り付けてケーブルをまとめてください。
8. 部品の取り付け怪我終了した後に必要に応じてケーブル調整ネジ（図の 24 番）を回し、ブレーキペダルを踏んだときにブレーキがしっかり作動するように調整してください。車いすに取り付けられているタイヤの種類によってブレーキの位置を微調整して、ブレーキを使用するときに適度な力でブレーキが作動するように調整する必要があります。ブレーキペダルに強い力が加わると、ブレーキケーブルの寿命が短くなります。調整が終わったら、ケーブル調整ネジを締めてスペーサーブロックにナットを取り付けて固定してください。

X. ベルトポジショニングベルトの使用方法

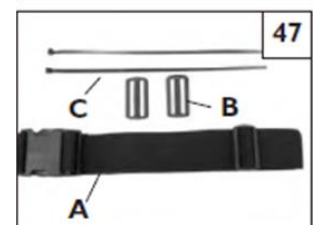
注意:

車いすに取り付けられているポジショニング・ベルトは、車いす上で使用者の姿勢を保持するために設計されています。自動車や公共の交通機関を使用するときの安全ベルトとしては使用しないでください。

ポジショニングベルトキットに含まれる部品 [図 47]

- ポジショニング・ベルト本体（A）1 本
- 溝付き金具（B）2 個
- ベルト固定用ケーブル（C）2 本

1. ポジショニング・ベルトを組み立てるには、ベルトの両端にある溝付き金具にベルトを通してください。[図 48]



2. ポジショニング・ベルトを車いすのバックポスト部分に巻きつけてください。
3. ポジショニング・ベルトを溝付き金具の後ろに通しバックポストの周りで輪を作ってください。図のようにポジショニング・ベルトがバックポストにしっかりと取り付けられるように設定してください。[図 49]
4. ポジショニング・ベルトを固定するには付属のベルト固定ケーブルをポジショニング・ベルトに通して、フレームの周りに巻きつけ、締め付けてください。この時、ベルトの締め過ぎには注意してください。上記の手順 2~4 を繰り返す、ベルトの両側を固定するようにしてください。
5. ベルトの長さを調整するには溝付き金具とベルト本体の着脱用バックルを適切な長さに合わせてください。
6. ポジショニング・ベルトは、ベルトを装着した時に着脱用バックルが使用者の腹部の中心にくるように設定してください。
7. ポジショニング・ベルトの適切な締め付け具合は、ベルトを装着したときにベルトと腹部の間に手が入るぐらいの隙間が空くようにしてください。[図 50]



【警告】

ポジショニング・ベルトは必ず使用者の担当医師、看護師、セラピスト等の専門家、または車いすをお買い上げの販売店の技術スタッフに依頼し、正しい取り付けと設定を行ってください。

【警告】

ポジショニング・ベルトを毎回使用する際に、ベルトの擦り切れや劣化などがないことを確認してください。また、ベルトの着脱用バックル部分が正しい位置に設定されるようにしてください。(上記の手順 6 を参照)

【警告】

ポジショニング・ベルトは、移動中の車内における使用者の安全を確保するための手段として使用にしないでください。

ポジショニング・ベルトのメンテナンス

ポジショニング・ベルトに生地のはつれや、固定金具などの劣化や損傷などがないか定期的に点検し、万一不具合がみられた場合には部品を交換してください。

注意:

ポジショニング・ベルトの長さは使用者が不意にベルトの長さを変えることがないように定期的に点検し、常に車いす使用者の体に合わせて設定してください。

最終確認

車いすの設定と調整が正しければ、円滑に操作でき、オプション類も問題なく使用することが可能です。車いすの使用前に必ず、最終確認を行ってください。正しい設定になるまで、車いすの調整と確認を行ってください。もし、問題が発生した場合は、以下の方法を試してください。

1. 設定方法、確認方法、操作方法の章を読み直し、車いすの設定が正確に行われているか確認してください。
2. トラブルシューティングの章を確認してください。
3. 問題が解決されない場合は、お買い上げの販売店に連絡をしてください。

X. トラブルシューティング

定期的に車いすの点検を行い、車いすを一番良い状態に保ってください。(特に、車いすの設定変更を行った後は、必ず車いすの性能チェックを行ってください。この表は、車いすに不具合が生じた際に、その症状に対していくつかの解決策をまとめたものです。この表を参考に車いす全体の確認を行い、何か問題を発見した場合は、車いすを使用する前に該当する解決策を試してください。それでも、問題が解決されない場合は、お買い上げの販売店に連絡してください。

注意:

調整を行う際は、どのような調整を行ったのかがわかるように、一回につき、一箇所だけ変更を加えてください。

車いすの症状	走行時軌道が左にずれる	走行時軌道が右にずれる	車いすの各部が弛んでいる	旋回する時の動きがスムーズでない	車いすがガタガタする	キャストの動きが不安定である	テイルト状態にする時の振り子の動作が速すぎる。テイルト状態から通常の座位へシートを戻しにくい	テイルト状態にするための振り子の動作が重い。シートがテイルト状態から通常の座位へすぐに戻ってしまう。	解決策
✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	空気入りタイヤの場合、両方の後輪の空気圧が正しいか、また両側後輪の空気圧が同じか確認してください。
		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	全てのナットとボルト類がきちんと固定されているか確認してください。
		✓	✓	✓	✓	✓	✓	✓	後輪がスポークホイールの場合、全てのスポークとニップルがきちんと固定されているか確認してください。
				✓	✓	✓	✓	✓	潤滑油をフレームの接続部分と部品に注油してください。
✓	✓		✓	✓	✓	✓	✓	✓	キャストの設定を確認してください。調整の方法は、キャストの設定方法を参照してください。
	✓								プラスチック製キャストサドル(受け)と左キャストプレート上部との間にスペーサーワッシャーを追加してください。
✓									プラスチック製キャストサドル(受け)と右キャストプレート上部との間にスペーサーワッシャーを追加してください。
✓									プラスチック製キャストサドル(受け)と右キャストプレート下部の固定ボルトとの間にスペーサーワッシャーを追加してください。
	✓								プラスチック製キャストサドル(受け)と左キャストプレート下部の固定ボルトとの間にスペーサーワッシャーを追加してください。
✓	✓				✓				両側のキャストが地面についていることを確認してください。片側のキャストが浮いている場合は、浮いている側のキャストプレートについているベアリングの下部とフォークステムの間にキャストが地面に接地するまでスペーサーを追加してください。必ず、地面の平らな場所でこの作業を行ってください。
							✓		ご購入の販売店に相談し、重心と回転支点の位置を前方へ設定してください。
								✓	ご購入の販売店に相談し、重心と回転支点の位置を後方へ設定してください。

XI. メンテナンス

A. 注意

- 適切なメンテナンスは、車いすの寿命を延ばします。
- 快適な車いすの操作のためにも、定期的に車いすを清掃してください。定期的に清掃をすることによって、緩くなったボルトや、損傷のある部品を事前に見つけることができます。
- 何らかの異常が見つかったときは、車いすを使用する前に緩くなったボルトは締め直し、損傷のある部品を修理してください。
- クイッキーアイリス/ジッピーアイリスを大切に使用するためにも、点検や修理は、販売店で行うことを推奨します。

【警告】

以上の警告に留意しないと、車いすの転倒や損傷、車いすからの転落、車いすの操作ができなくなる場合があります、使用者や、周囲の方に深刻な怪我をさせる危険性があります。

- メンテナンス表を使用し、車いすの点検を行ってください。
- 車いすに問題を発見した場合、修理を行ってから使用してください。
- 少なくとも1年に1回は、販売店による車いすの点検を行ってください。

B. メンテナンス表

毎週	3ヶ月ごと	半年ごと	1年	確認する内容
✓				タイヤの空気圧
✓				ブレーキ
	✓			各ボルトやネジの緩み、劣化
		✓		アームレスト
		✓		車軸と車軸受け
	✓			クイックリリース・アクスル
	✓			ホイール、タイヤとスポーク
	✓			キャスター
	✓			転倒防止ホイール
		✓		フレーム
✓				ティルトローラー
✓				ティルトケーブルと先端の固定ピン
✓				ティルトロッカー
			✓	販売店による定期点検

C. メンテナンスの方法

1. 6ヶ月ごとに、部品が緩くなっていないか、破損していないかの点検をしてください。
2. タイヤの空気圧

空気入りのタイヤの空気圧を毎週確認してください。また、タイヤ表面の減り具合などを確認してください。空気圧が不十分な場合は、車いすへの損傷につながります。

D. 掃除方法

1. 塗装されている部分
 - a 月に1度は中性石鹸を溶かした水で、塗装面をきれいに拭いてください。
 - b 3ヶ月ごとに、研磨性のない車のワックスなどを塗り、塗装を保護してください。
2. アクスルと稼働部品
 - a 週に一度は絞った雑巾で、汚れを拭き取ってください。
 - b 車いすに付着した、ほこりや汚れも拭き取ってください。

注意:

お手入れの際、部品にグリースを塗ったり、油をさしたりする必要はありません。

3. ティルトロッカーのアームとティルト角度設定金具
 - a 週に一度はティルトロッカーのアーム部分の下部の表面を少し湿った布で拭いてください。
 - b 週に一度は左右のティルトケーブルの先端にある金具を点検し、必要に応じて車いすから取り外して拭いてください。

E. 車いすの保管方法

1. 車いすは、清潔で湿気の無い場所で保管してください。このような場所で保管しないと、車いすが錆びたり、腐食したりする可能性があり、故障の原因にもなります。
2. 車いすを使用する前に、メンテナンス表を参考に点検を行い、車いすが正しい設定になっているか確認してください。確認してください。
3. 3ヶ月以上使用せずに保管した場合は、車いすを使用する前に販売店に点検を依頼してください。

XII. 保証

この車いすの製造元であるサンライズメディカル社は、この車いすの有効耐用年数を 5 年と設定しています。車いすに不具合が生じた場合にはサンライズメディカル社の規定に基づき、以下のとおり保証いたします。

A. 生涯保証

ご購入時の状態の車いすのフレーム及びクロスチューブに生じた製品の素材や品質の欠陥(製造元の工場出荷時の不具合)について、最初に購入された方の購入日より生涯保証いたします。

B. 1 年間保証

ご購入時の状態の車いすに使用されているサンライズメディカル社製のパーツや構成部品に発生した製品の素材や品質の欠陥(製造元の工場出荷時の不具合)について、最初に購入された方の購入日より 1 年間保証いたします。

C. 保証対象外

1. 以下については、保証の対象外となります。
 - a タイヤ、チューブ、座布、背布、パッド、押手グリップ
 - b 放置、事故、誤用、不適切な取り付けや修理に起因する損傷
 - c サンライズメディカル社の書面による許可のない改造を施された製品
 - d 重量制限を超えた使用に起因する損害
2. シリアル番号のタグが外れていたり、改ざんされたりした場合は、保証が無効になります。
3. この保証は譲渡できません。サンライズメディカル社の正規代理店から車いすを最初にご購入された方にのみ適用されます。

D. 保証責任

製品に関する保証、及び責任は、製造元であるサンライズメディカル社が有します。

当社の保証責任は、保証対象部品の修理や、部品の交換を行うことです。これは通常使用によって生じる 部品の自然磨耗にのみ適用されます。

E. お願い

1. 修理を依頼する前に、保証の対象、期間、修理する内容等をご確認ください。
2. 修理の必要なクイッキー車いすや部品を、元払いで代理店宛てに郵送してください。
3. 保証対象外商品、送料、工賃等の代金は、お支払いください。

F. お客様へ

正規代理店から、車いすを最初にご購入された方を対象に、保証の手続きを行います。詳細は、正規代理店までお問い合わせください。

ここにシリアル番号を記入しておいてください。

